

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 16	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 タマネギの直播栽培技術指針の作成	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 【背景】2015 農林業センサス（販売目的で作付けした野菜類の作物別作付け農家数と作付け面積）によると、タマネギの作付け面積は横浜市 19ha、川崎市 6ha で、神奈川県 125ha の 20%であるが、常備野菜であり、横浜川崎地域の直売所でも通年の需要は高い。しかし、定植期の 11 月は、軟弱野菜等の播種・収穫の最盛期にあたり、労働力不足によりタマネギの適期定植が難しく、早植えによる抽苔や遅植えによる肥大不足のほか、作付け量も抑制されている。 【内容】タマネギの直播栽培は、春まき秋どり栽培が盛んな北海道など寒冷地では技術が確立しているが、秋まき春どり栽培の地域では、直播栽培の成果は見られない。一方、当地域では一部の生産者が、疎植育苗で選別採苗後に残った苗を直播栽培に活用しているが、その技術的成立要件ははっきりしていない。そこで、当地域におけるタマネギの直播栽培の技術指針の作成を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター	担当部所 生産技術部 野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	
対応の内容等 タマネギ直播栽培は、加工・業務用向け一貫作業体系として、育苗・定植の省力化を目的に北海道他全国で検討が行われているところです。一部、成功事例や取り組みがニュース等に取り上げられることはありますが、気象の年次変動の影響を強く受けるため、安定生産は困難で、欠株、小玉、変形球（分球）が課題となっています。秀品率は移植栽培に劣るので収益確保のため、密植栽培が行われます。このため、御指摘の北海道でも直播栽培は業務・加工向けとし、青果市場向けは移植栽培を推奨しています。 また、安定・省力生産には除草剤使用が欠かせませんが、現在、府県における直播栽培に使用可能な剤はありません。以上のことから、ご希望される年限内での技術指針の作成は不可能であると考えます。 御指摘のとおり不適切な移植による抽苔や肥大不足は見られますが、移植は、苗の状態によりその後の成育の進み具合を制御する技術でもあります。適期作業の徹底、指導が第一と考えます。余剰苗による育苗床での栽培も出荷時の予備球生産や自家消費向けであって安定生産を前提とする経済行為には至らないと考えます。	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備 考	